

聖書:使徒の働き18章18～22節

説教:パウロの誓願

はじめに

これまでのあらすじを振り返ります。地中海の物流の拠点として大変栄えていたコリントにパウロがやってまいります。いつものようにユダヤ人会堂に入り、イエス・キリストの死と復活を宣べ伝えると、予想されたことではありましたがユダヤ人から激しい攻撃にあいます。こらえきれなくなったパウロは「あなたがたの血は、あなたがたの頭上に降りかかれ」と啖呵を切る。自分の手で救いを拒否したのだから、その結果がどうなるうともそれはあなたがたの責任です。そのような意味のことを言ってパウロは会堂から出て行ってしまいます。そんなこともありながらも一方では、異邦人が救われ、ユダヤ人の会堂司も救われていく。そこだけ切り取れば、大変だったけれど恵みもたくさんあったと手放しで喜びたくなりますが、実情はもっと複雑でした。どうもパウロは心が折れそうになるくらい落ち込んでしまった。そのとき主が幻の中に現れて「恐れなくて語り続けなさい」と励まします。それでパウロはコリントに一年六ヶ月の間滞在し、神のことばを教え続け、途中、ユダヤ人から訴えられたりもしたけれど、それも無事に切り抜けることができた。それが前回までのあらすじです。パウロはコリントでの宣教を終えてイスラエルに帰ろうとしています。ここにどんな神の励ましがあたのか、ともに見てまいります。

1 ナジル人の誓願 (民数記6章)

1) 方法

今日の所を読んで、誰もがこれはなんだろうかと思うのは、「パウロは誓願を立てていた」というところでしょう。これは一体何か。これと似たようなものに日本にもあって、たとえば絵馬というのがあります。「家内安全」とか「大学合格」、「恋愛成就」、「病氣平癒」などと書いた絵馬を神社に奉納する。あるいは、塩断ちとか茶断ちというものもあります。願いがかなうまで大好きなものを食べないというのもある。いずれも神仏に特別な願いをするときに行います。パウロも何か特別な願いがあったので、自分のやり方で願をかけたのか。

もちろん自分勝手なことをしたわけではない。聖書に書かれていりとおおりに、したがっています。民数記6章5節です。「彼がナジル人としての聖

別の誓願を立てている間は、頭にかみそりを当ててはならない。主のものとして身を聖別している期間が満ちるまで、彼は聖なるものであり、頭の髪の毛を伸ばしておかなければならない。」

間違ってしまいそうですが、ナジル人とはイスラエル人とかローマ人のようなある民族のことではありません。ナジル人というのは、誓願を立てる人のことを指す呼び名です。そんな特別な呼び名があるくらいですから、誓願を立てる際のさまざまな守るべき決まり事があります。その一つに、髪の毛を切ってはいけなくて伸ばしたままでなければならないというのがある。誓願の期間が終わったので、パウロがケンクレアで髪を剃ったということです。一年六ヶ月間、髪を伸ばしたままだったでしょう。

2) 目的

パウロが聖書にしたがって誓願を立てたことはこれでわかりました。では、どうしてパウロは誓願を立てたのか。それを知りたい。それでまず、そもそもナジル人の誓願の目的は何かというところを確認しておきましょう。民数記6章2節。「イスラエルの子らに告げよ。男または女が、主のものとして身を聖別するため特別な誓いをして、ナジル人の誓願を立てる場合。」私は今日から、主のものとして身を聖別しますと誓いを立てる。これがナジル人の誓願の目的です。

2 パウロ

1) 強いストレスを受けて弱くなる

ではなぜパウロはナジル人の誓願を立てなければと思ったのか。大きなきっかけとなったのは18章9, 10節です。「ある夜、主は幻によってパウロに言われた。『恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。』」

パウロはコリントのユダヤ人会堂で、十字架で死に、三日目によみがえらたイエスこそ、旧約聖書に示されている油注がれた救い主キリストであると、説得します。ところがユダヤ人たちは、パウロに反抗し、口汚くののしりまったく聞こうとしない。とうとうパウロはこれは見込みがないとあき

らめて会堂を出て行く。出て行った後どうなったか。これだけ大きな騒ぎを起こしたのですから、ただでは済まない。パウロはユダヤ人から要注意人物としてマークされ、行動は逐一監視され、ときには嫌がらせもされる。パウロにしてみれば、そんな人たちとは距離を取って、なるべくトラブルにならないようにしたかった。ところがパウロはどこに住んでいたか。ティオティオ・ユストの家です。その家が会堂の隣にあった。これは相当のストレスです。それだけではない。会堂司とその家族が救われました。ユダヤ人たちがよい感情を持つはずがありません。これも大変なプレッシャーになる。さすがのパウロも精神的に落ち込んでしまいました。そんなときに主が幻に現れて「恐れないで、語り続けなさい」と言われました。

2) 誓願の動機

これを聞いたパウロは覚悟を決めました。ユダヤ人たちから危害を加えられるのではないかと恐れていたけれど、「わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない」と語ってくださったみことばを信じ、腰を据えて伝道することにしました。そのときにパウロはナジル人の誓願をした。このことから、パウロがなぜ誓願を立てたのか、動機が見えてくる。二つあります。

一つ目は単純です。主がみことばをもって弱っていた自分を励ましてくれたことへの感謝があります。

二つ目。心が落ち込んだとき、どんなふうになってしまうか、みなさんも経験があると思います。前向きなことは考えられません。出てくる考えは全部、後ろ向きで悲観的なことばかりです。どんどん視野が狭くなり、この世界で自分はひとりぼっちだという思いになり、「私はみじめです。私は不幸です。私は、私は」となる。おそらくパウロもそうだった。だ自分のことしか見えなくなり、主がともにおられるという実感がなくなってしまった。そんなときに主の御声を聞いて、自分しか見えていなかったことを悔い改めて、このからだを主におさげします。主のみこころのためにお使いください、改めて決心した。それがパウロの誓願です。

3) 神を動かすための誓いだったのか？

みなさんも誓いを立てたことがあるでしょうか。今年は毎日汗をかく運動をしようと決心し、紙に「毎日運動」と書いて壁に貼っておく。最初の一週間は毎日できた。けれどもそのうちだんだ

んやらなくなって、誓いを書いた紙もゴミ箱に捨てた。そういうことがある。あるいは先ほども言ったように、かつてクリスチャンになる前、神社に行って商売繁盛とか、大学合格とか病氣平癒の絵馬を奉納をし、神仏に手を合わせて祈願したとかです。

ナジル人の誓願はどうなのでしょう。パウロは神に何かをお願いしようとしたのでしょうか。ナジル人の誓願の目的はなんであったか。もう一度読みます。「男または女が、主のものとして身を聖別するため特別な誓いをして、ナジル人の誓願を立てる場合。」どこにも、あなたの願いを神に聞き入れてもらうためとは書いていない。神が私のためにああしてください、こうしてください、そのための誓願です、とは書いていない。あくまでも神のために、人間の方から自分のからだをささげる誓いを立てる。神が語りかけてくださった応答として、パウロはナジル人の誓願を立てました。

3 主の備え

1) プリスキラとアキラ

その結果どうなったのでしょうか。一時は、ユダヤ人から訴えられて法廷に引かれて行き、あやうく危害を加えられそうにはなりました。けれども、御霊が働いてくださり、パウロが何も語らなくても、パウロは守られて無事に釈放されました。そうして一年六ヶ月の間コリントで宣教活動を行うことができた。一時は気落ちしてしまっていたパウロだったけれど、よくがんばった。こんなふうでできたのは、パウロの信仰がすばらしいとか、よく努力したということだったのか。

よく読んでください。決してパウロ一人ががんばりましたという話ではない。パウロのそばに同労者がいるのです。ローマにいられなくなってコリントに移ってきていたプリスキラとアキラ。この二人は、パウロがコリントに来たばかりで生活に困っていたときに、わざわざ家に呼んで一緒に天幕を作りをしなからパウロを支えました。パウロがコリントを去ってイスラエルに帰るといっても、この二人は船に乗って一緒に行った。普通、ここまでしますか。コリントには商売のお得意さんがあったでしょうし、隣近所とも付き合いができて、それなりに生活の基盤が出来上がっていた。ローマから追い出されたけれど、やっとコリントで落ち着くことができた。ところがそれを捨ててまったく新しいところに出発していく。パウロとこの夫婦が強い信頼関係で結ばれていなかったらとてもできません。

つまりこういうことになる。主がパウロに「恐れなくて語り続けなさい」と言われたとき、あなたは一人でがんばりなさいではなかった。プリスキラとアキラが、パウロを後ろからしっかりと支えていたのです。

2) あらかじめ備えてくださる

この二人はパウロと一緒に船に乗ってエペソに向かい、パウロからエペソ教会のことを託されます。プリスキラとアキラ、すばらしい信仰者です。これほど理想的な支え手はいないと思えるくらいです。パウロがコリントに来て西も東も分からず心細い思いをしていたとき、ひょんなことから出会ったこの夫婦でした。これは偶然でしょうか。いいえ。パウロが弱り果てる前から、主は完全な備えをされていたということです。

このようにしてくださる主とともにまた歩んでまいります。

